

星の子通信 2

～チーム星宮小のみなさんへ～

R元年.6.26. No. 4

文責 新井麻起



先生方の活躍ぶりや授業等の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～「見方・考え方」を働かせた「深い学び」への指導方法の工夫～に取り組んでいます。

校内授業研究の1回目として、6月24日(月)に田島達也教諭による5年の算数科の授業が公開されました。

5年 田島達也教諭 教科 算数 単元名「小数の割り算を考えよう」

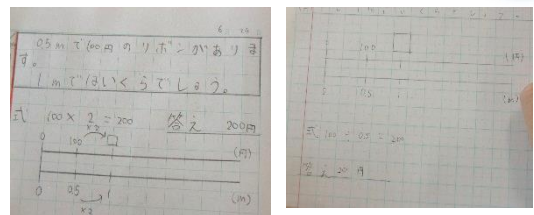


【比例の意味の確認】



C「かける数が2倍3倍になると答えも2倍3倍になり、わる数が÷2÷3になると答えも÷2÷3となる。」

【自力解決】



C「0.5mで100円のテープがあります。2mではいくらになりますか。」の問題を自力解決している。その中で $100 \times 2 = 200$ と $100 \div 0.5 = 200$ の式が考えられていた。

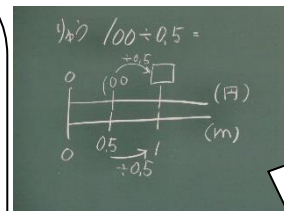
本時は、テープの長さが代金に比例するという関係をおさえてから、「0.5mで100円のテープがあります。1mではいくらになりますか。」という等分除の問題を提示していく。この問題は、 $100 \times 2 = 200$ と $100 \div 0.5 = 200$ の2つの求め方がある。 $100 \div 0.5 = 200$ の答えはわかるが、割られる数より商が大きくなってしまい、児童は違和感が残る。そこから「どうしてわられる数より商が大きくなるのか。」という課題に進んでいく授業である。

【 $100 \times 2 = 200$ の説明】



C「代金はテープの長さに比例するのでテープの長さが2倍になっているので、代金も2倍します。だから $100 \times 2 = 200$ となります。」

【 $100 \div 0.5 = 200$ の説明】



C「代金はテープの長さに比例するから、長さが0.5だから $0.5 \div 0.5 = 1$ になっているので代金も $\div 0.5$ にしました。」

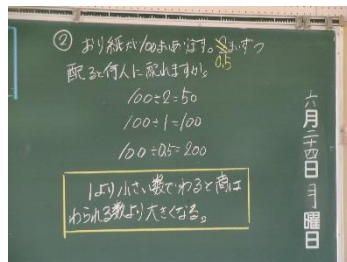
ここでわられる数より商が大きくなっていることに気づく。

【「どうなると、わられる数より商がおおくなるのか」を考える】



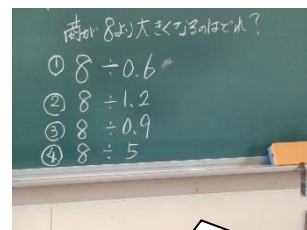
C「0.5以外の0.2、0.9でも確かめたけど、1より小さい数はわられる数より商が大きくなる！」

【まとめ】



『わり算では、1より小さい数でわると商はわられる数より大きくなる』

【適用問題】



T「この4つの計算で商がわられる数より大きくなるのはどれですか？計算しなくてもわかりますよね。」

【パネルディスカッションによる研究協議】

【パネラー】

○意図的な発問、気付いてほしい視点を提示すること、繰り返すことが深い学びへのポイント
○教科書とは違う、分かりやすい数字を使っていたのは良い。

【フロアー】

○日頃の授業で押さえさせるところが明確なので、既習事項もすんなりでてくる。
△「変な感じ」を全体で共有できるとよかった。